●経緯

▶ 第1回評価検討会(7/25)において、より事故削減に直結する自動車アセスメントとしていくため、 事故データを分析し、現評価の妥当性、今後アセスメントで防ぐべき事故を明確にする。 また、その実現のためのロードマップを見直す方針が合意された。

●今後の進め方

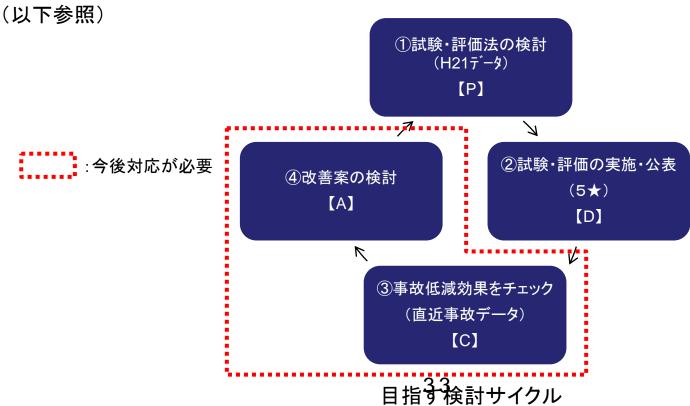
- ▶ 今年度、現在のアセスメントにおける課題を整理、見直しの方向性を検討する。
- ▶ 次年度以降、決定方針に沿って個別事故データ等に基づいた具体的な見直しを行う。

自動車アセスメントの見直し

(課題)

- 現アセスメントでは、過去の事故データを集計し事故削減に寄与する安全技術を対象に試験・評価 法を導入し、多くの車に当該技術が搭載されている。
- しかしながら、事故削減が出来たか事後評価を実施しておらず、事故実態の変化が生じているのかどうかも確認していないことから、変化に応じて試験・評価法を見直せていない。
- 結果、真に事故削減したいという明確なビジョンを示すことが出来ないことから、ユーザーに伝わりにくいものになっていないか?

⇒試験評価法の導入後の事故実態の変化を踏まえた見直しのための検討サイクルを確立する。



検討サイクルの概要

- 検討サイクルの期間を、交政審(技術安全ワーキンググループ)の開催と連動した「5年間」に設定。
- ・ 交政審で掲げられた「車両安全対策の方向性」を踏まえ、アセスメントで取り組むべき重点テーマを 設定(ロードマップへも記載)。
- 期中3・5年目のタイミングで見直しを行う。
- サイクルの運営については、専門チームを立ち上げ国交省・ナスバで共に実施。※適宜他のWGとも連携

5年間の動き(イメージ)

1~2 年 目

3年 目

4年 目

5年 目 (決定方針の下、評価・公表)

中間見直し(年初~)
 重点テーマに対応する事故データ●年分を基に、削減効果をチェック。
 効果が確認できない場合には、原因を分析し試験法の見直しの検討を行う。

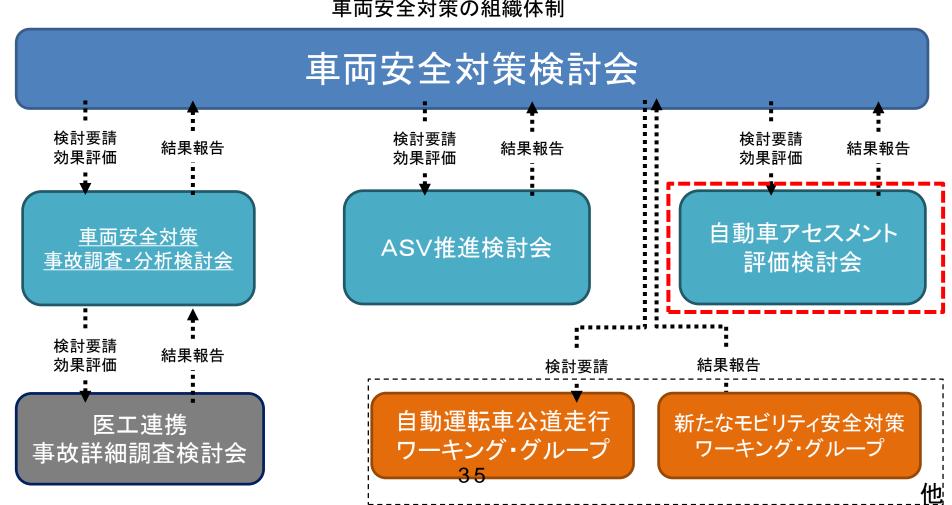
(評価・公表 ※中間見直しで変更があった場合には反映)

- ◆ 最終見直し(年初~)
 - 一次見直し結果に●年分の事故データを補完。5年間の事故削減成果を確認し成果と課題を整理する。
- ◆ 次期方針策定(最終見直し後に実施) 最終見直し結果及び交政審での議論も踏まえながら、次期アセスメントの重点テーマ、新規項目・現試験の見直し(廃止)を策定する※。
- ※重点テーマと関連しない試験項目の見直し等適宜実施する。

車両安全対策検討会との連携

- 自動車アセスメントの5年間の取組については、車両安全対策検討会へも適宜連携。
- テーマの策定・見直しにあたっては車両安全対策事故調査・分析検討会の分析内容も考慮する。

車両安全対策の組織体制



(参考) 各評価項目の整理 (AEBS対車両/対歩行者)

各評 価項目	基準導入	アセス 導入	平均 得点率 (2019-21)		得点算出の基礎となる死者/重傷者の発生状況		者の発生状況	
	2021年	2014年	94%	●類型:追突/駐車車両				
AEBS 対車両						2009年	2021年	※参考値
					死者	77人	26人(-66%) ※AEB搭載:5人、AEB搭載以外:21人	
					重傷者	1,951人	718人(-63%) ※AEB搭載:122人、AEB搭載以外:596人	
				AEBS搭載別の事故件数(乗用、軽乗用、保有台数千台当たりの事故件数) ・AEBS搭載車 : 1.08件 ・AEBS非搭載車: 2.688件 (約2.5倍) ※令和2年第2回車両安全対策検討会資料				
AEBS 対歩行者 (昼間)	2021年	2016年	91%	●類型:歩行者横断中(昼間)				
						2009年	2021年※参考値	
					死者	207人	75人(-64%)	
						重傷者	1,176人	761人(-35%)
AEBS 対歩行者 (夜間)	_	2018年	87%	 ●類型:歩行者横断中(夜間)				
						2009年	2021年※参考値	
					死者	642人	203人(-68%)	
					重傷者	1,355人	826人(-39%)	
				AEBS搭載別の事故件数(乗用、軽乗用、保有台数千台当たりの事故件数) ・昼間 AEBS搭載車:0.161件、AEBS非搭載車:0.314件(約2倍) ・夜間 AEBS搭載車: 0.03件、AEBS非搭載車:0.215件(約7倍) 36 ※令和2年第2回車両安全対策検討会資料			314件 (約2倍)	

(参考)各評価項目の整理 (その他の予防安全性能)

各評 価項目	基準導入	アセス 導入	平均 得点率 (2019-21)	4	导点算	軍出の基礎	となる死者/重傷者	の発生状況
AEBS 対自転車	2024年	2022年		●類型:	自転車	横断中/追突		
						2009年	2021年 ※参考値	
				万	正者	102人	30人(-71%)	7
				重	傷者	1,855人	1,155人(-38%)	
車線逸脱 警報/抑制		2017年 警報2014年	90%	●類型: い+その		両+車両単独(路外逸脱+工作物等)+車両	
						2009年	2021年 ※参考値	
				3	死者	235人	47人(-80%)	
				重	傷者	630人	117人(-81%)	
		2018年	60%	●類型:	人対車	両 ※夜間のみ		
高機能 前照灯						2009年	2021年 ※参考値	
				3	死者	108人	65人(-40%)	
				重	傷者	105人	99人(-6%)]
ペダル踏 み間違い	_	2018年	88%				工作物+駐車車両) ブレーキの踏み間違い	
						2009年	2021年 ※参考値	
				3	死者	7人	10人(+43%)
				3 ₇ 重	傷者	68人	53人(-22%	5)

(参考)各評価項目の整理 (衝突安全性能)

各評価項目	基準導入	アセス 導入	平均 得点率 (2019-21)	基準化された車両安全対策の安全性指標 ※対象:乗用車、軽乗用車 ※令和2年第2回車両安全対策検討会資料
フルラップ 前面衝突	1993年	1995年	91%	●前面衝突基準(フル・オフ) 致死率
オフセット 前面衝突	2005年	2000年	87%	適合車群 0.12% 非適合車群 0.44%
側面衝突	1996年	1999年	99%	●側面衝突基準
後面衝突 頸部保護	2012年	2009年	86%	_
歩行者保護 (頭部)	2005年	2003年	74%	●歩行者保護突基準(頭部·脚部) 致死率
歩行者保護 (脚部)	2013年	2011年	97%	適合車群 0.44% 非適合車群 2.55%
シートベルトリマインダー	2005年	2011年	77% 38	●シートベルトリマインダー(運転席) シートベルト着用率 適合車群 99.5% 非適合車群 99.3%